

調 査 意 見 書

受理番号 107-118		学校 高等学校		教科 商業		種目 原価計算		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
1	31	側注②	この場合の記帳処理も、上図に示したように行う。	生徒にとって理解し難い表現である。 (上図の記帳処理が分からない。)	3-(3)				
2	65	16 - 17	雑給…ふつう間接労務費となる。 以下、65ページ「直接労務費と間接労務費」の図の「雑給」と「間接労務費」の線も同様。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「雑給」の全てが「間接労務費」になるかのように誤解する。)	3-(3)				
3	197	12 - 13	「簿記」で学習する支店会計の独立の場合の本店勘定と支店勘定の関係と同じである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)				
4	197	側注①	これまで学んできた仕訳帳とまったく同じである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (当該ページ以前に仕訳帳の記載が無く理解し難い。)	3-(3)				
5	裏見返 7	2	※赤色の文字は、工業簿記特有の勘定科目である	生徒にとって理解し難い表現である。 (記述の根拠が分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 107-119		学校 高等学校		教科 商業		種目 原価計算		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
1	口絵③	囲み	左下「未完成のときの原価計算表」の「原価計算表#1（未完成品）」の全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (集計欄のみを示す理由が分からない。)	3-(3)				
2	3	囲み	「製造業の経営活動と原価計算」の図の「購買活動」「製造活動」「販売活動」の矢印	生徒にとって理解し難い表現である。 (矢印の色が薄く分かりにくい。)	3-(3)				
3	4	3	原価計算表に記帳する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (84ページ1行目「原価計算表の記入」との違いが分からない。)	3-(3)				
4	11	13 - 14	見込生産の場合には、製品の販売価格は市場の需要と供給の関係で決まるので	生徒にとって理解し難い表現である。 (需要と供給の関係について説明が不足しており理解し難い。)	3-(3)				
5	20	囲み	「材料勘定と材料費勘定」の全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (材料費勘定の借方の処理が分からない。)	3-(3)				
6	30	図	「サービス業にかかる費用」の左上「店舗の賃借料・減価償却費」	生徒にとって理解し難い表現である。 (賃借料と減価償却の関係が分からない。)	3-(3)				
7	38	9	購入単価	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)				
8	41	囲み	「各原価計算表の直接材料費の合計と仕掛品勘定の直接材料費の一致」の全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (原価計算表の位置付け及び記載内容が分からないため記述の内容が理解し難い。)	3-(3)				
9	49	3 - 4	予定していた消費高よりも余分に材料を消費してしまった 以下、49ページ7行目から8行目「予定していた消費高よりも材料の消費を抑	生徒にとって理解し難い表現である。 (49ページ1行目「材料消費価格差異の内容」の表題に照らして理解し難い。)	3-(3)				
			えることができた」も同様。						

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 107-119		学校 高等学校		教科 商業		種目 原価計算		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
10	57	5 - 6	間接労務費となる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)				
11	72	表	「修繕料」「減価償却費」の「直接経費」「間接経費」欄の全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)				
12	305	2	準製品原価	脱字である。	3-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-120		学校 高等学校		教科 商業		種目 原価計算		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
1	《2》	図	右下の図書のページの図	生徒にとって理解し難い表現である。 (本書の2ページの内容と異なる。)	3-(3)				
2	《5》	9	左段「7 公式法変動予算による差異分析」の「105」	不正確である。	3-(1)				
3	1	リード	1行目「買ってきたものをそのまま売る商業簿記」、3行目「製品を製造して売る工業簿記」	生徒にとって理解し難い表現である。 (2ページ2行目から3行目及び3ページ1行目から3行目の記述に照らして理解し難い。)	3-(3)				
4	40	12	仕入単価 以下、40ページ14行目も同様。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (断定的に過ぎる。)	3-(3)				
5	40	12 - 13	帳簿棚卸数量と実地棚卸数量の差額	生徒にとって理解し難い表現である。 (数量の比較に差額を用いる理由が分からない。)	3-(3)				
6	58	表	「労務費の分類」の「雑給」の「間接労務費」 以下、69ページ5行目「雑給勘定から製造間接費勘定へ振り替えます。」も	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての場合において雑給が間接労務費になるかのように読める。)	3-(3)				
			同様。						
7	67	1	消費者賃金勘定	誤記である。	3-(2)				
8	82	1 - 8	「測定経費」の全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (測定経費における実際の支払額の扱いについて説明が無く理解し難い。)	3-(3)				
9	104	図	「製造間接費」勘定の貸方の「材料」	誤記である。	3-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 107-120		学校 高等学校		教科 商業		種目 原価計算		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定			
	ページ	行							
10	201	囲み	9行目下の囲み1行目「製造原価に」の後の縦線	誤植である。	3-(2)				
11	203	側注	下の吹き出しの「正常減損が…0%を掛けます。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (202ページ側注の吹き出し「正常減損を計算上無視する」と相互の関係が分からない。)	3-(3)				
12	226	側注	下吹き出しの「製品元帳は、材料における材料元帳に相当する帳簿です。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (文意が理解し難い。)	3-(3)				
13	259	図	「標準原価計算と原価管理」のイラストの右吹き出し「製品を2000円で…3時間だな」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (製品を作る金額に合わせて作業時間が決まるかのように読める。)	3-(3)				
14	302	4	製品原価 以下、303ページ5行目「製品原価」も同様。	生徒にとって理解し難い表現である。 (303ページ2行目は「製造原価」としており「製品原価」、「製造原価」と異なる表記を使う理由が分からない。)	3-(3)				
15	304	図	「利益計画と全部原価計算」の図の金額 以下、305ページ「利益計画と直接原価計算」の図の金額も同様。	生徒にとって理解し難い図である。 (「円」表記の有無の基準が分からない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。